

(様式1)

「高校生のための学びの基礎診断」への申請について

令和3年 6月 25日

①事業者名	公益財団法人 日本漢字能力検定協会					
②測定ツール名	文章読解・作成能力検定 4級					
③主な対象者	中学校「国語」の学習内容を含めて基礎学力の定着度合を確認したい高校1年生					
④対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容 の区分	基本タイプ	標準タイプ
	○				○	
⑥申請する測定ツールの目的・概要	義務教育段階で身につけた語彙力を土台として、文章の読解力や作成力、ひいては論理的思考力やコミュニケーション力を高めることを目的としています。					
⑦申請する測定ツールの特長・活用例等	「基礎力」「読解力」「作成力」に大別し、その能力を5つの大問により測定しています。特に一定数の文字量の文章を手書きで記述することを重視しており、4級では100字程度の通信文の推敲、320字程度の意見文の作成を課しています。測定は1回で完結しますが、年間6日程すべてで同レベルかつ異なる問題（新しい問題）を出題しているため、複数回受検して学習の伸長度を確認することも可能です。受検者には標準解答に加え、受検結果資料として、通信文や意見文のどこが書けていて、どこに不備があったかをフィードバックしています。また、受検後の振り返り学習のためのプリントも用意されています。指導者向けには意見文の採点項目に沿って、どのような誤答がよくあり、どのように指導すればよりよくなるのかをまとめた資料を団体専用のWEBページより受検後ダウンロードできるようにして、学びのPDCAを補完する資料を提供しております。また、大学や企業での活用例も増えてきているため、学習した内容・結果がそのまま入試やレポート作成、就職試験などの将来にも役立ちます。					
⑧実施期間、年間実施回数	年間6日程（8月～11月で3日程、1月～2月で3日程）のうち、学校側が都合のよい日程を選択して受検できます。すべての日程で異なる問題を作成しているため、クラスによって異なる日程（時期）を選択することも可能です。					
⑨実施方式 (CBT/PBT)	PBT					
⑩試験時間(分)	国語	数学	英語			
	60分					
⑪受検料	2,000円/回					
⑫標準返却期間	約40日後					
⑬URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	https://www.kanken.or.jp/bunshouken/					

(様式2)

認定要件への適合性の申告内容について

事業者名:公益財団法人 日本漢字能力検定協会

測定ツール名:文章読解・作成能力検定 4級

対象教科:国語

測定内容の区分:基本タイプ

I. 出題に関すること

(1)出題の基本方針

国語の基礎学力の定着度合を確認することを目的として、国語における〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項(2)情報の扱い方に関する事項、〔思考力、判断力、表現力等〕B「書くこと」C「読むこと」に関する能力を測定します。

出題範囲は、中学校「国語」の内容とします。

診断は1回の受検で完結するものですが、複数回受検したり、上位の級にステップアップしたりすることで、より明確に伸長度が確認できます。

出題形式は、選択式と記述式であり、知識及び技能などの基礎問題に加えて、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・表現力等を問う問題を出題します。

特に一定数の文字量を要求する記述問題を必ず2問以上出題します(100字程度の通信文、320字程度の意見文)。

(2)構成等

①出題形式

選択式20問程度(三択または四択)

記述式2問(100字程度1問、320字程度1問)

②出題範囲

<各回共通>中学校「国語」の学習内容10割

(3)難易度設定の考え方・方法

出題語彙について、漢検4級程度(中学校在学程度)を基準としており、読解問題及び記述問題については、約16,000人を対象としたモニターテストの実施及び過去8年間の検定実施実績により難易度を設定しています。

(4)基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

読解問題では、日常的な題材から社会的な内容にまで範囲を広げ、問題を解くことで、受検者が、国語の能力を高めると共に視野を広げ新たな情報を得ることもできるように配慮しています。グラフや図表読解では、単に図表を理解する力だけでなく、レポートや報告書の中で示された図表と文章を関連させながら読み解く力を育むよう工夫しています。

意見文の作成では、受検者が日常的に触れることが多いテーマを選び、興味関心を持って取り組むことができるように工夫しています。意見文の作成を条件通りに行うことで、ブレン・ストーミングを活用した材料集め、意見を支える事実を具体的に書くことが学べます。さらに、通信文では、日常必要とされる手紙の形式や手紙特有の言い回しなどの知識が自然と身につくように、出題において工夫しています。

(5)その他特長

Ⅱ. 結果提供に関すること

(1) 受検者個人への結果提供内容・方法

<結果提供項目>いずれも紙媒体での提供

- ①問題 ②標準解答 ③総合得点 ④合否判定 ⑤結果総評 ⑥選択式問題の結果詳細（正誤）
- ⑦分野別得点 ⑧合格者平均点 ⑨記述問題の結果詳細 ⑩今後の勉強方法（学習アドバイス）
- ⑪本人と同じ年齢層の分野別得点率 ⑫振り返り学習教材（意見文）

<個別の内容>

- ①問題：受検終了後に一旦回収し、翌日以降に配付します。
- ②標準解答：受検5日後を目安にwebサイト上で公開します。これにより、受検後早期に確認することが可能です。
- ③総合得点：200点満点で示します。
- ④合否判定：当該級のレベルに到達しているか否かがわかります。
- ⑤結果総評：得意な分野と苦手な分野がわかるように記述文で示します。
- ⑥選択式問題の結果詳細：選択式問題のそれぞれについて、正誤及び無答、失格（指定外の個数をマーク）を記号で示します。復習する際に役立ちます。
- ⑦分野別得点：設問分野別の得点を示します。
- ⑧合格者平均点：設問分野毎の合格者平均点を示します。これにより、自己と合格者との差を確認することができます。
- ⑨記述問題の結果詳細：記述問題について、採点ポイントごとに何ができていて何ができなかったのかを示します。
- ⑩今後の勉強方法（学習のアドバイス）：何が課題であり、どのような観点で学習していくことが望ましいのかを示します。
- ⑪本人と同じ年齢層の分野別得点率：受検者には、本人と同じ年齢層の分野別得点率を示します。自己の能力がどのあたりのレベルにあるのかがわかります。
- ⑫振り返り学習教材（意見文）：意見文の中でも誤答傾向が高い「意見を支える事実」について、誤答例を示し、それを訂正しながら正答を導き出す振り返り学習プリントです。

(2) 学校等への結果提供内容・方法

<結果提供項目>紙媒体での提供※帳票サンプルを添付。

- ①申込者数・欠席者数・受検者数・合格者数・合格率（級別表示）②受検者全員の得点・合否一覧
- ③設問分野ごとの平均点の比較 ④結果コメント（得意分野と苦手分野の指摘）
- ⑤枝問・小問ごとの正答率分析比較（選択式問題限定）

注) ①と②については学校専用webサイトから加工可能な電子データとしてダウンロードが可能

<個別の内容>

- ③学年クラス別に設問分野ごとの平均点を表示するため、全国平均や合格者平均との差異を把握できます。
- ④総括的に学校ごとの得意分野と苦手分野を示します。
- ⑤選択式問題において、具体的にそれぞれの問題の正答率が確認でき、次の指導に活用できます。

(3) 試験等の結果(正答状況やスコア等)に対する評価の考え方と分析の手法

検定結果は合計200点満点のスコアで表示するとともに、測定する能力分野ごとに同年齢層との差異を示します。

また、結果総評として得意な分野と苦手な分野がわかるように記述文で示すとともに、記述問題に関しては、問題ごとに採点ポイントを設け、それぞれの条件を満たしたか否かを記述詳細に表示します。通信文では、書くべき内容は問題ごとによりますが、それ以外の項目（敬語や文のつながり

方)は共通です。また、意見文は毎回共通の視点(文章構成、事実の具体性、意見の明確さ、表現表記の瑕疵の有無)による結果詳細を表示します。そのため、過去の成績(検定結果)と比較することが容易です。さらに、各自の苦手分野に関しては、「今後の勉強方法」でアドバイスを示し、苦手分野の克服の助けになるものと考えています。

Ⅲ. 運営に関すること

(1)問題の質を確保するための方法

専門的な知識を有する研究者、教員等で構成した問題作成委員による問題原案を、問題作成検討会(4回以上開催)で精査し、完成させています。また、検定実施後に、受検結果データを分析し、設問文にあいまいさはなかったか、問題の難易度に大きな差異はなかったかなどについて検討しています。その結果を問題の向上に活用しています。また、定期的に項目分析を行い、信頼性係数や点双列相関係数を確認し、品質向上に努めています。

(2)学校における実施方法

学校での実施にあたっては、事前に「準会場の手引き」(準会場規定含む)等の対応マニュアルを配布します。事前に不明点を確認したい場合や当日のトラブルに備え、通話料無料のお問い合わせ窓口を設置しています。

学校単位、クラス単位、また希望者のみなど、様々な単位で受検できます(10名以上)。

またクラス内の生徒間の学力差に応じて、同一教室内で、別の級を同時に実施することが可能です。

学校には、申し込みや入金などの事務と本検定の実施当日の運営を行っていただきます。具体的には問題冊子・解答用紙の配布、実施時の監督、解答用紙の回収と当協会への返送を行っていただきます。

(3)採点の方法と体制

採点方法:1つの答案に対して複数回採点員を変えて採点することで、採点員による差がでないように配慮しています。また、採点時は当該問題の解答欄のみを表示する仕組みをとっており、答案用紙の学校名・氏名等の情報を採点員が知ることができない体制により、公正性を担保しています。

採点体制:当協会が協力企業と協働することで品質を担保しながら多数の記述式答案の採点を行っております。役割分担としては、当協会が検定回ごとに採点ガイドラインを作成し基準を明確にするとともに、採点開始前に採点監督者に対して採点基準説明会を実施、また採点後(採点結果確定前)に抜き取りチェックを行い適切な採点が行えているかどうかを確認しています。協力企業は、採点監督者と採点員の確保を行い、さらに、協会が提供する採点員ごとの最終採点結果との差異の評価を用い、採点員本人に伝えることで採点品質向上に努めています。

(4)情報管理体制

当協会は、情報セキュリティ基本方針並びに個人情報保護方針を策定し、運営しています。また、一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)の審査を受け、2004年よりプライバシーマーク付与事業者として登録され、更新審査も8回経ています。

IV. 情報開示に関すること

(1) 障害のある受検者等への配慮

弱視等の視覚障害のある受検者の場合、問題冊子・答案用紙を拡大して受検することが可能です。

(2) 事前／事後学習教材の有無、内容

事前／事後学習教材として複数種の問題集を用意していますが、別料金のため任意での使用となります。

なお、受検者に対しては事後学習用の無料教材を検定結果と共に配付しています。

(3) 学習状況等のアンケートの有無、内容

受検団体ごとに実施後の任意アンケートを依頼しております。受検目的や各団体の課題、当協会へのご要望などを収集しております。

(4) 個人受検の可否

一部地域（2021年時点では東京・大阪）において、個人受検用の会場を設けています。

(5) 問題内容の情報提供

既出問題については、過去問題集の販売という形で一般に提供しています。サンプル問題や正答例についてはホームページに掲載しています。また、受検者・受検校には、受検した問題・標準解答を提供します

(6) その他

学校の許諾なく、教育委員会等へ情報提供することはありません。

(様式3)

認定要件への適合性を示す書類等一覧について

事業者名：公益財団法人 日本漢字能力検定協会

測定ツール名：文章読解・作成能力検定 4級

対象教科：国語

測定内容の区分：基本タイプ

I. 出題に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定基準					
			I. (1)	I. (2)	I. (3)	I. (4)	I. (5)	

II. 結果提供に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定基準	
			II. (1)	II. (2)
帳票(生徒向け)	検定結果通知	3-1		○
帳票(学校向け)	会場別成績資料	3-2	○	

III. 運営に関すること

<提出必須の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
実施要項(試験時間、実施方式、実施期間、受検料、標準返却期間等)	文章検ガイド	3-3
学校用実施マニュアル	準会場の手引き	3-4

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
情報管理体制に関する書類	プライバシーマーク登録証	3-5

IV. 情報開示に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号

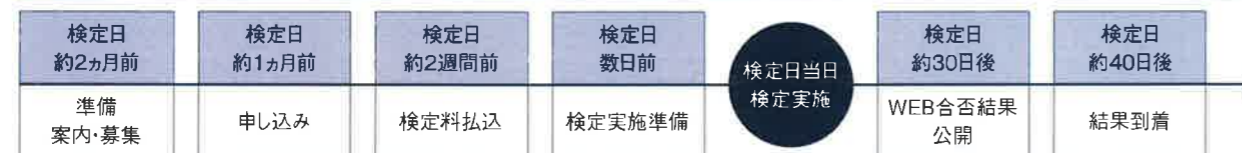
文章検の概要

団体受検

団体受検とは、学校や塾・企業などの団体に志願者を**10名以上**集めて、まとめて申し込みを行う方法です。

検定会場	準会場(設置条件を満たしている学校や団体が、自ら団体受検用の会場と責任者を設け実施する)
設置条件/申込資格	○学校教育法に定める学校(専修・各種学校を含む)、各省市庁の学校および官公庁 ○上記以外の団体(塾や企業など)は、協会に準会場設置申請をして承認を得る(ただし、漢検準会場として既に承認を得ている団体は申請不要) ○「準会場規程」を遵守することができる団体
申込条件	2級～4級の準会場での志願者が合計10名以上 / 「準会場規程」の遵守を誓約すること
申込方法	インターネット(団体専用ページ)から申し込む。
検定料控除制度	団体の経費負担を補助する制度。検定料から以下が控除できる。 ・事務連絡費(検定料総額の5%) ・準会場実施経費 注意:志願者から検定料を割引いて集金することは不可
検定料払込方法	検定日の約2週間前に発送される専用の払込票で、検定日前日までに払い込む。
可否の通知	検定日から約40日後を目安に受検者全員分の検定結果資料が一括で担当者に届く。

申し込み・実施の流れ 詳細は「文章検ホームページ」をご確認ください。



個人受検

個人受検とは、志願者が直接協会に申し込み、公開会場で受検する方法です。

検定会場	公開会場(当協会または当協会と特別に提携した機関が一般の受検者のために設けた会場)
公開会場設置都市	東京都(23区内) / 大阪市 ※2021年度は全国2会場で実施予定
申込方法	インターネット、コンビニエンスストア

※上記内容を変更する際は、文章検ホームページにて公表します。
※標準解答、合格者の会場番号・受検番号は文章検ホームページに公開します。その他詳細については文章検ホームページをご確認ください。

2021年度 検定日程

検定日	受付開始日	申込締切日	検定級
2021年 8月24日(火)	2021年 7月1日(木)	2021年 7月26日(月)	準2～4級
2021年10月30日(土)		2021年10月 1日(金)	準2～4級
2021年11月12日(金)	2021年11月1日(月)	2021年10月14日(木)	準2～4級
2022年 1月26日(水)		2021年12月21日(火)	準2～4級
2022年 2月12日(土)		2022年 1月17日(月)	準2～4級
2022年 2月13日(日)★漢		2022年 1月18日(火)	2～4級
個人受検 2022年 2月13日(日)	2021年11月1日(月)	2022年 1月18日(火)	2～4級

・日曜日(★の日程)に準会場受検を実施する場合は、公開会場の検定時間に準じて実施してください。
・漢印は、漢検を同じ日に実施できる日程です。

団体受検(準会場)の検定時間について

平日と土曜日の検定 開始時刻は問いません。

日曜日の検定

公開会場と同一の問題を使用するため、下記の検定時間に準じて実施してください。ただし、許容範囲内(2級は公華会場の検定開始時刻より前後90分間、準2～4級は前後60分間)において、開始時刻を調節することは可能です。

公開会場(日曜日)の検定時間	2級	15:00～16:30
	準2、3、4級	15:00～16:00

←→ 公開会場実施時間
(図)検定開始許容時間 ■■■ 開始時刻の許容範囲

検定級	検定時間	13:00	14:00	15:00	16:00
2級	90分			15:00 ←	→ 16:30
準2、3、4級	60分			15:00 ←	→ 16:00

例:2級は13:30～16:30の間に開始すること

漢検 公益財団法人 日本漢字能力検定協会

文章検 フリーコール 0120-509-315(無料)

メールフォーム: [文章検ホームページ] お問い合わせ] <https://www.kanken.or.jp/bunshouken/contact/>

「漢検」、「文章読解・作成能力検定」、文章検ロゴは登録商標です。

お問い合わせ時間

月～金 9:00～17:00(祝日・お盆・年末年始を除く)

※検定日とその前日の土、日は閉鎖

※検定日と申込締切日は9:00～18:00



文章検 ガイド

進路の実現に役立つ
文章力を測り、育てる検定のご案内



文部科学省「高校生のための学びの基礎診断」認定ツール

漢検 公益財団法人 日本漢字能力検定協会

進路の実現に役立つ

「文章力」

大学入試改革や新学習指導要領の実施に伴い、これからの大学・高校入試では、長文や複数の資料を読んで理解したうえで、論理的に思考し文章で表現する力が問われます。希望する進路を実現するためには、文章力すなわち「読解力(=情報を正確に読み取る力)」と「作成力(=自分の考えを論理的に伝える力)」を早い段階から身につけておく必要があります。読解力や文章作成力向上のために、ぜひ「文章検」をご活用ください。

*「文章検」の出題に際しての漢字使用は漢検の級と合わせています。文章検4級は、漢検4級(中学校在学程度)合格者や同程度の語彙力をお持ちの児童・生徒の皆様におすすめの検定です。

文章力が必要な場面

中学生



≫高校入試対策
(課題作文・長文読解)

高校生



≫大学入試対策
(小論文・長文読解)

大学生・専門学校生



≫志望理由書の作成
≫実習レポートの作成

社会人



≫報告書・決裁書・提案書・
プレゼンテーション資料の作成

文章検コンテンツの採用目的(例)

入試対策に

志望理由書作成のトレーニングに

日頃の学習目標や指導の効果測定に

全国の大学・短期大学454校(調査対象校の約42%)、専修学校251校が文章検を評価。進学時の調査書や面接で、文章検合格をアピールすることができます。

お茶の水女子大学、東京農工大学、東洋大学、日本大学、法政大学、明治大学、早稲田大学、金沢大学、信州大学、同志社大学、大阪府立大学、関西大学、近畿大学、甲南大学、広島大学 など

※2020年1月発表・当協会調べ

活用校の詳細を公開中!

文章検 進学



文章検活用団体の声

プリンス進学院 多摩境校(東京都)

文章検に向けた学習で「書く」スピードがアップ

当校舎では、小中学生を対象に4級から段階的に文章検を受検させています。文章検4級レベルの力があれば、都立高校入試で出題される200字以内の記述問題は十分解答できるようになります。長期休みの講習会で文章作成指導を行っており、文章の型を使って繰り返し書かせることで、文章作成のスピードが徐々に上がってきます。記述問題を解く力がつけば、他の教科の学習に時間が使えるため、早いうちから文章検の学習を始める大切さを保護者に説明しています。

文章検に向けた学習で「書くこと」のスピードが上がり、「合格」という目標に到達することで生徒の自信にもつながります。今では、普段から分かりやすい文章を書こうと自主的に意識する生徒が増えてきたと感じています。



塾長

森 憲行 先生

都の西北学院(東京都)

文章作成への苦手意識がなくなりました

当塾では、中学受験を目指す小学生や、中学生を対象に文章検を実施しており、対策授業は検定1ヵ月前から開始します。授業では、過去問題を使って文章を作成し、自分の書いた文章を発表してもらいます。基本的には、生徒同士でお互いの文章を評価し合いながら、文章の型や表現の仕方を学んでいきます。

この取り組みによって、文章作成への苦手意識がなくなっただけでなく、自分の考えていることをきちんと言葉で表現できるようになりました。相手の立場をふまえて物事を考えるようになり、コミュニケーションの基本が養われたのか、精神的にも成長した生徒が多いように感じます。そしてその成長は、他教科で学ぶ姿勢などにも作用していると思います。



国語担当

坂本 陽子 先生

あお葉ゼミナール 篠栗校(福岡県)

200字前後の記述問題が難くこなせるように

当塾では、検定試験での合格で自信をつけ、さらに少しでも入試で有利になって欲しいという思いから検定受検を推奨しています。入試の記述問題対策としてはもちろん、まだ他の塾や学校での実施が少ない検定の受検機会を提供したいと考え、文章検を導入しました。検定対策として、検定1ヵ月前頃に、数日間の対策講座を実施しています。

検定受検に向け、繰り返し文章を書く機会を作ることで、生徒たちの「文章を書くこと」に対する抵抗は少なくなったと思います。特に入試で出題されるような200字前後の記述問題は難くこなせるようになり、国語の問題に限らず、他教科でも文章を書くスピードが上がりました。その分、他の問題を解く時間が増えるなど、学習の基盤になっていると感じています。



検定担当

今泉 達也 先生

文章検は企業でも活用されています

全日本空輸株式会社、株式会社ニューオータニ、オリックス生命保険株式会社、エステー株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社JVCケンウッド・エンジニアリング、株式会社富士通ビー・エス・シー、日本瓦斯株式会社、東洋建設株式会社 など

※掲載内容(所属団体・役職名等)は取材時のものです。

文章検で育て、測る力

文章検で育てる力

文章力は複数の能力が関連した総合的な技能です。

論理的文章の作成には完成までのプロセスがあり、プロセスごとに必要な能力が異なります。必要な能力を個別に鍛えることで、効率的・効果的に文章力を向上させることができます。

文章作成のプロセス



文章検で測る力



検定級の目安

詳細は文章検ホームページでご確認ください。



級	文章力向上の目的例	中学生	高校生	大学生・ 専門学校生	社会人	検定時間	検定料
2級	企画書・提案書の作成					90分	4,000円
準2級	小論文対策					60分	3,000円
3級	志望理由書の作成 実習レポートの作成					60分	3,000円
4級	高校入試の課題作文・ 長文読解対策					60分	2,000円

合格基準は「200点満点・70%程度の得点」です。

*出題に際しての漢字使用は、漢検の級と合わせています。

学習の流れ

Step1
目標級の設定

Step2
教材で学習

Step3
受検・振り返り

Step4
進路の実現

学習教材

<p>基礎から学べる! 文章力ステップ</p> <p>基礎から実践レベルまで段階的にステップアップする構成で、無理なく文章力を身につけられる問題集。</p> <p>2級/準2級/3級/4級 各 本体700円+税</p>	<p>文章検 公式テキスト</p> <p>詳しい解説と問題演習で確かな文章力を養い、文章検合格に導くテキスト。</p> <p>2級/準2級/3級/4級 各 本体450円+税</p>	<p>文章検 過去問題集Vol.2</p> <p>2017年度・2018年度実施の全検定問題を収録した過去問題集。(Vol.1も発売中)</p> <p>2級/準2級/3級/4級 各 本体1,100円+税</p>	<p>7日でチャレンジ 文章作成ワーク</p> <p>まんがとグループワークで「言いたいことを正確に伝える文章」が書けるようになる新しい教材。</p> <p>20冊ご購入ごとに指導書を進呈 本体700円+税</p>
---	--	---	---

教材はWebでも購入できます! 団体専用 書籍注文サイト <https://book.kanken.or.jp/>

検定結果通知

200点満点。 70%程度で合格。	
各設問の得点率が 一目で分かる。	
記述問題は解答内容に 応じて結果を表示。 「できていた点」 「不足していた点」等を 細かくフィードバック。	

能力証明書類 (合格者のみ)

<p>合格証書</p> <p>あなたの文章力を証明します。</p>	<p>合格証明書</p> <p>必要に応じて進学・就職を 希望する学校・企業へ ご提出ください。</p>
-----------------------------------	--

(様式 4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名：公益財団法人 日本漢字能力検定協会

測定ツール名：文章読解・作成能力検定 4級

対象教科：国語

測定内容の区分：基本タイプ

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
<p>・漢検 4 級 (常用漢字 1 3 3 9 字) 程度の語句の意味が理解でき、文脈に応じた語句を選別できること。</p>	<p>【設問数】 5 問 (程度) 【出題形式】 選択式</p>	<p> 彙 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項 ○ 漢字 ○ 語彙 </p>	<p> 中学校第 3 学年 [知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ○ 語彙 イ 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して語感を磨き語彙を豊かにすること。 中学校第 2 学年 [知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ○ 漢字 ウ 第 1 学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち 3 5 0 字程度から 4 5 0 字程度までの漢字を読むこと。また、学年別担当漢字表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 ○ 語彙 エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味をあらわす語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 中学校第 1 学年 [知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ○ 漢字 イ 小学校学習指導要領第 2 章第 1 節国語の学年別漢字担当表 (以下「学年別漢字担当表」という。) に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち 3 0 0 字程度から 4 0 0 字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字担当表の漢字のうち 9 0 0 字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 ○ 語彙 ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 </p>

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・文法的な意味や働きを理解できること。	【設問数】 3問(程度) 【出題形式】 選択式	知識及び技能(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 <input type="radio"/> 文や文章	中学校第2学年 [知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 <input type="radio"/> 文や文章 オ 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。
・資料が示す意味を理解できること。	【設問数】 2問(程度) 【出題形式】 選択式 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">サンプル問題</div>	思考力、判断力、表現力等 <input type="radio"/> 読むこと	中学校第2学年 [思考力、判断力、表現力等] <input type="radio"/> 読むこと <input type="radio"/> 精査・解釈 ウ 文章や図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。

(様式 4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
<p>・文章の中で文や段落が果たす役割を理解できること。</p>	<p>【設問数】 4 問 (程度) 【出題形式】 選択式</p>	<p>(形式) 造と内容の把握(説明的な文章) ○読むこと ○精査・解釈</p>	<p>中学校第 2 学年 〔思考力、判断力、表現力等〕 ○読むこと ○構造と内容の把握 ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。 中学校第 1 学年 〔思考力、判断力、表現力等〕 ○読むこと ○構造と内容の把握 (説明的な文章) ア 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見の関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。 ○精査・解釈 (形式) エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。</p>
<p>・文や文章を構成する要素を正しく配列できること。</p>	<p>【設問数】 3 問 (程度) 【出題形式】 選択式</p>	<p>知識及び技能(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 ○言葉遣い</p>	<p>中学校第 3 学年 〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ○言葉遣い エ 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うこと。</p>

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
<p>・日常必要とされる通信文を与えられた条件のもとで書けること。</p>	<p>【設問数】 1 問 【出題形式】 記述式 (100 字程度)</p>	<p>知識及び技能 ○表現の技法 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと ○推敲</p>	<p>中学校第 2 学年 〔知識及び技能〕 ○表現の技法 イ 話し言葉と書き言葉の特長について理解すること。 〔思考力、判断力、表現力等〕 B 書くこと ○推敲 エ 読み手の立場にたって、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。</p>

(様式4)

<p>・「事実の報告」「意見」の二つの部分による意見文を作成できること。</p>	<p>【設問数】1問 【出題形式】記述式(320字程度)</p> <p>サンプル問題</p>	<p>知識及び技能 ○語彙 ○情報の形成、記述 ○共有 ○情報と情報の関係 ○思考力、判断力、表現力等 B書くこと ○構成の検討 ○情報の形成、記述</p>	<p>中学校第1学年 〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ○語彙 ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 〔知識及び技能〕 (2) 情報の扱い方に関する事項 ○情報と情報の関係 ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について、理解すること。 中学校第2学年 〔思考力、判断力、表現力等〕 B書くこと ○構成の検討 イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。 中学校第1学年 〔思考力、判断力、表現力等〕 B書くこと ○考えの形成、記述 イ 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。 ウ 根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。 中学校第1学年～第3学年 ○共有 題材の設定、情報の収集、内容の検討 ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。(第3学</p>
--	--	--	--

(様式4)

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
			年を記載) ○共有 考えの形成、記述 ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考え て描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫す ること。(第2学年を記載) ○共有 推敲 エ 読み手の立場にたって、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確か めて、文章を整えること。(第1学年を記載)

(様式5)

サンプル問題について

事業者名：公益財団法人 日本漢字能力検定協会

測定ツール名：文章読解・作成能力検定 4級

対象教科：国語

測定内容の区分：基本タイプ

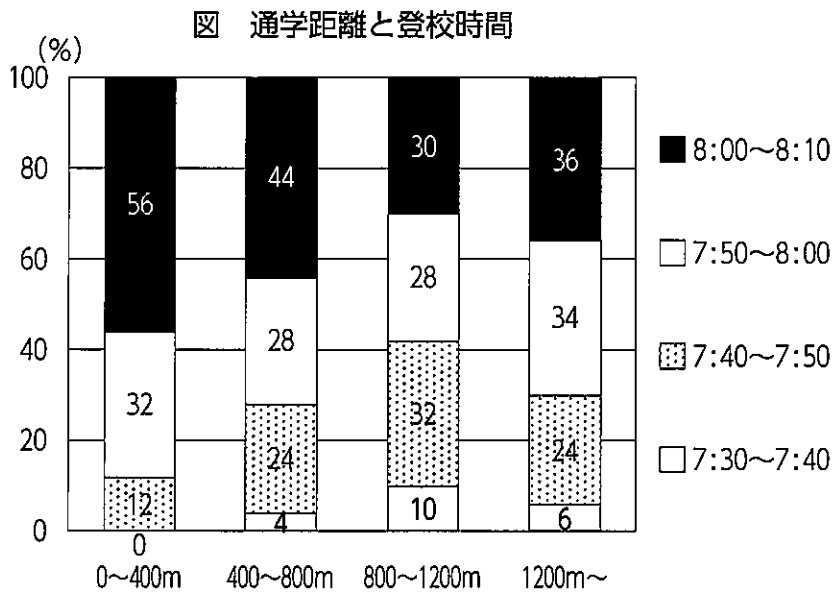
サンプル問題番号(大問番号)： 2

出題科目	国語																				
出題のポイント	図表を読みとり、その資料が示す意味を理解できるかどうかを測定する。																				
主として問う能力	<table border="1"><thead><tr><th>小問番号</th><th>知識・技能</th><th>思考力・判断力・表現力等</th></tr></thead><tbody><tr><td>問1</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>問2</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	問1	○		問2	○												
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																			
問1	○																				
問2	○																				
出題形式	<table border="1"><thead><tr><th>小問番号</th><th>選択式</th><th>短答式</th><th>記述式</th></tr></thead><tbody><tr><td>問1</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>問2</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	小問番号	選択式	短答式	記述式	問1	○			問2	○										
小問番号	選択式	短答式	記述式																		
問1	○																				
問2	○																				
主として問う技能 (英語のみ)	<table border="1"><thead><tr><th>小問番号</th><th>聞く</th><th>読む</th><th>話す</th><th>書く</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> <p>※該当するものに「○」を記入すること。 ※小問を含まないものについては、小問番号は記載不要。</p>	小問番号	聞く	読む	話す	書く															
小問番号	聞く	読む	話す	書く																	
サンプル問題	別紙A参照																				
解答例	問1：エ 問2：エ																				
(参考)学習指導要領の関連項目	中学校第2学年 〔思考力、判断力、表現力等〕 C読むこと ○精査・解釈 ウ 文章や図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。																				

サンプル問題番号(大問番号): 5

出題科目	国語				
出題のポイント	与えられた条件を理解し、それを踏まえて賛成または反対の立場に立って自分の意見を述べるができるかどうかを測定する。				
主として問う能力	小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等 ○		
出題形式	小問番号	選択式	短答式	記述式 ○	
主として問う技能(英語のみ)	小問番号	聞く	読む	話す	書く
	<p>※該当するものに「○」を記入すること。 ※小問を含まないものについては、小問番号は記載不要。</p>				
サンプル問題	別紙B 1 参照				
解答例	別紙B 2 参照 (正答条件) 観点1 設問で指定した条件通りに述べられている 観点2 経験などにもとづいて「事実」が具体的に述べられている 観点3 賛成・反対のどちらかの立場に立って明確に「意見」が述べられている 観点4 「事実」が論理的に「意見」を支えている 観点5 誤字・脱字や文法に関する誤りが無い				
(参考)学習指導要領の関連項目	中学校第1学年 [知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ○語彙 ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 [知識及び技能] (2) 情報の扱い方に関する事項 ○情報と情報の関係 ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について、理解すること。 中学校第2学年 [思考力、判断力、表現力等] B 書くこと ○構成の検討 イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。 中学校第1学年 [思考力、判断力、表現力等] B 書くこと ○考えの形成、記述				

<p>イ 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考 えること。</p> <p>ウ 根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。</p> <p>中学校第1学年～第3学年</p> <p>○共有 題材の設定、情報の収集、内容の検討</p> <p>ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確 認し、伝えたいことを明確にすること。(第3学年を記載)</p> <p>○共有 考えの形成、記述</p> <p>ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするな ど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。(第2学年を記載)</p> <p>○共有 推敲</p> <p>エ 読み手の立場にたって、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える こと。(第1学年を記載)</p>



- ・ 調査対象者：各距離につき徒歩通学者50名ずつ。計200名。
- ・ 調査期間：6月1日~6月30日
- ・ 朝の開門時間：7時30分
- ・ 朝の閉門時間：8時10分

第2問 次の図は、ある中学校の生徒を対象に、自宅から学校までの通学距離と、それぞれの登校時間を調べた結果を表したものです。これを見て、後の問い(問1・問2)に答えなさい。(20点)

問1 図から読み取れることとして正しいものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。

- ア 通学距離が八〇〇メートルから一二〇〇メートルの生徒で七時四十分から七時五十分に登校する生徒は32人である。
- イ どの通学距離でも、七時五十分から八時までに登校する生徒が最も多い。
- ウ 七時五十分までに登校する生徒が最も多いのは、通学距離が四〇〇メートルから八〇〇メートルの生徒である。
- エ 通学距離が四〇〇メートルまでの生徒の半数以上は、八時から八時十分の間に登校している。

問2 次は図について説明した文章の一部です。空欄①・②に入る内容の組み合わせとして最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。

生徒は、通学距離が一二〇〇メートルまででは、距離が長くなるほど全体に①傾向が見てとれる。それは、通途中で何かあるかもしれないなどといった心配から、早めに家を出るためだと考えられる。しかし、一二〇〇メートルを超えると、登校時間がさらに早くなるという事実は認められない。それは、現実として②ためと考えられる。

- ア ①登校時間が早くなる ②朝早く起きる
- イ ①登校時間が遅くなる ②開門時間を気にする
- ウ ①登校時間が遅くなる ②閉門時間を気にする
- エ ①登校時間が早くなる ②通学に時間がかかる

第5問 書店やCDショップには、小さなカードに本やCDの簡単な紹介などが書かれた、「ポップ(POP)」と呼ばれる広告が置いてあることがあります。このポップについて、どれを買うか決めるときに「役に立つ」という意見と「役に立たない」という意見があります。どちらかの立場に立って、意見文を書きなさい。次の条件を守ること。

(60点)

条件1 意見文は、次の順番で二つの段落に分けて書くこと。

第1段落 出来事・体験・知識を述べる。

「書店やCDショップにあるポップ」について、あなたの意見を支える出来事・体験・知識を述べる。

第2段落 意見を述べる。

書店やCDショップにあるポップは、「どれを買うか決めるときに役に立つ」か「どれを買うか決めるときに役に立たない」のどちらか、意見を明確に述べる。

条件2 1行25字のマス目に縦書きで、必ず10行以上、16行以内で書くこと。句読点も1字として数える。句読点が行頭にくるときは、前行末欄内または欄外にうつてよい。

注意 行数が不足した場合、または行数を超えた場合は採点の対象となりません。

記述問題の採点チェックポイント

第4問 問2 (25点)

チェックポイント	配点
(1) 3文の続き具合が不自然でないか	6
(2) メモの内容すべてを、手紙の文章としてふさわしい表現で書いているか	14
(3) 誤字や脱字、文法のミスがないか	5

第5問 (60点)

作成例にある記号の意味

Ⓐ: 事実 Ⓑ: 意見

チェックポイント	配点
構成: 事実・意見の2段落になっており、事実は意見を支えているか	20
第1段落: 事実は具体的で、イメージが思い浮かぶようなものであるか	10
第2段落: 自分の意見が、はっきりと示されているか	10
表記: 誤字脱字などのミスがないか	10
表現: 語句の誤用、文法の誤りなどのミスがないか	10

* 行数不足、行数超過は採点対象外(0点)です。
実際の採点では部分点等を規定しております。

作成例1 「ポップは役に立つ」立場

駅前の大型書店では、店員によるかわいらしいポップがたくさんあり、いつも楽しい気分させられる。ポップには、店員も読者の一人として読んだ感想が示されており、その本がどんな本だったかがついつい気になるような書かれ方をしている。この前も、まったく知らない作家の本だったが、ポップの文言から読みたくなって買ってみた。すると、本当におもしろかったので、その作家の本を他にも買うことにした。教えてもらえてよかったと思えた。

B このように、おすすめの情報が書かれたポップがあると、これまでに読んだことがないようなジャンルの本や自分だけでは知ることなかった本に出会える。書店やCDショップでは、どれを買うか決めるときにポップが役に立つ。

(25字×14行)

作成例2 「ポップは役に立たない」立場

近くのCDショップでは、あるバンドの特集が組まれていた。最新作のライブ盤や、バンド活動10周年を記念して発表されたベストアルバムなどが並べられていて、その一つ一つにポップがつけられていた。最初のポップには、「これだけは聞かないと絶対に損」と書いてある。次のアルバムにつけられたポップには「このバンド史上最高の作品、これを聞かなきゃファンとはいえない」と書かれていた。まるで、「これだけは買え」「これをまじく聞け」とひたすらたたみかけてくるようだった。どう見ても、売りたいだけのためにポップをつけているようで、どのアルバムを聞いたら楽しめるのか、ぜんぜん判断材料にならなかった。

A 本やCDなどにはポップをつけて宣伝していることがあるが、それは結局店がそれを売ろうとして押しつけてほしい文句を並べているだけだ。書店やCDショップにあるポップは、どれを買うか決める役には立たない。

(25字×16行)